# 特集

## 1 「北九州エコマンス」の実施

本市では、平成25年10月に、市制50周年を記念して、「北九州エコマンス」を実施しました。

北九州エコマンスは、10月にこれまで行ってきた「エコライフステージ」や「市民いっせいまち美化の日」などに加え、「OECDグリーンシティ・プログラム北九州レポート発表記念会議」など4日連続で国際会議が開催されることから、これらを一体的にPRして市民の関心を高めるとともに、市内外に北九州市民の環境の力を発信することを目的に実施しました。

「北九州エコマンス」期間中には、「市民いっせい雑がみ回収グランプリ」など官民一体となったイベントや取組が市内各地で合計34実施され、参加者総数は約38万人に上るなど、大いに盛り上がりをみせました。

#### 市民いっせい雑がみ回収グランプリ

家庭ごみの中に含まれる「古紙」のうち、分別が判りにくい「雑がみ」について回収強化を図るため、各世帯に「雑がみ回収袋」を配布し、北九州市衛生総連合会等と一緒になって、「雑がみ」の回収を促進する全市的なイベントを実施しました。回収量は1ヶ月間で約100トン(平成24年:年間約1.2トン)でした。



雑がみから生まれ変わった再生トイレットペーパーと 雑がみ回収袋で作成したオブジェ

#### 2 OECD北九州レポートの発表

経済協力開発機構(OECD) は、世界の34の先進国が加盟し、ブラジル、ロシア、アフリカ諸国を含む100カ国以上の国・地域とも専門知識や経験の共有を行う「世界最大のシンクタンク」であり、世界に対して大きな発信力・影響力を持っています。

このOECDが取り組む「グリーンシティ・プログラム」(モデルとなる都市のグリーン成長について分析・評価後、その成果を公表し、報告書の発行及び情報発信を行うもの)において、本市は、環境と経済を両立しながら成長を求めるグリーン成長都市のひとつとして、平成23年6月に、アジア地域で初めて選定されました。

#### ●OECD 北九州レポートの発表

平成 25 年 5 月に本市の環境に関する取組などについてまとめたレポート「北九州のグリーン成長」(英語版)がOECDより発表され、同年 10 月に日本語版が発表されました。本市ではレポートの発表を記念して、レポート発表日である平成 25 年 10 月 18 日に「OECDグリーンシティ・プログラム北九州レポート発表記念会議」を本市で開催しました。



日本語版レポートを受け取る北橋市長 (平成25年10月18日)

#### 3 北九州市環境モデル都市行動計画の改訂

本市は平成20年7月に、政府から「環境モデル都市」に選定され、平成21年3月に「北九州市環境モデル都市行動計画(北九州グリーンフロンティアプラン)」を策定しましたが、短期的な取組期間である平成21年度から平成25年度までが終了したことから、次の5年間(平成26年度から平成30年度まで)を期間として、計画を改訂しました。改訂された計画では、温室効果ガス削減の長期目標については高い水準を維持しつつ、引き続き温室効果ガス削減のための「5つの方針」の下に、取組をすすめていくことにしています。

#### 【長期目標(2050年削減目標)】

北九州市域 50% ( 830 万トン) アジア地域 150% (2,340 万トン)

※基準年 2005 年比



# 【5 つの方針】

- ①環境が先進の街を創る
- (低炭素社会を実現するストック型都市への転換)
- ②環境が経済を拓く
- (低炭素化に貢献する産業クラスターの構築)
- ③環境が人を育む
- (低炭素社会を学び行動する学習・活動システムの整備)
- ④環境が豊かな生活を支える
- (低炭素社会づくりを通じての豊かな生活の創造)
- ⑤環境がアジアの絆を深める
- (低炭素社会づくりのアジア地域への移転)

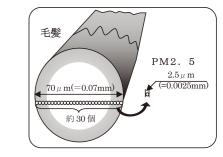
## 4 微小粒子状物質 (PM2.5) について

微小粒子状物質 (PM2.5) とは、大気に含まれる  $2.5~\mu$  m ( $1~\mu$  m = 千分の 1mm) 以下の小さな粒子で、肺の深部まで入りやすいことなどから、呼吸器疾患や循環器疾患などの健康被害が懸念されています。発生源は、物質の燃焼や土壌の巻上げなど、粒子として発生したもの (一次生成) に加え、大気中で気体が化学反応して生じるもの (二次生成) があります。平成  $21~\mu$  9 月に、環境基準 (人の生活環境を保全する上で維持することが望ましいレベル)として、「年平均値が  $15~\mu$  g/ m 以下であること」が定められました。  $(1~\mu$  g/ m = 1 m あたり百万分の 1g)

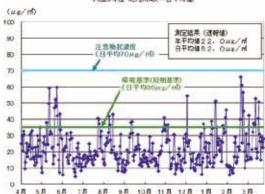
本市では、市内 11 箇所で PM2.5 を測定しています (平成 26 年 3 月現在)。

年間の変化は、春季と冬季は変動幅が大きい一方、夏季から秋季にかけては比較的安定しています。

測定結果は、福岡県ホームページや NHK(総合) のデータ放送で、 常時お知らせしており、日平均 70  $\mu$  g/ ㎡以上となることが予測 されるとき、注意喚起します。



平成35年度 北九州局(一日平均值)



## 5 PCB廃棄物処理に関する国からの要請の受入れ決定について

全国5箇所で行われているポリ塩化ビフェニル(以下PCB) 廃棄物の処理について、平成25年10月、全国的な処理の遅れを背景に、国(環境省)から本市に対して、北九州PCB廃棄物処理事業の処理の拡大と処理期限の延長に関する検討要請がありました。

要請を受けて本市では、70回以上、延べ1,800人を超える市民に説明を行い意見を伺うとともに、本会議や委員会での議論を通じて議会の意見を聴いてきました。

負の遺産を次世代に残さないよう、PCBを1日も早く根絶すべきことが市民の総意である一方、処理の安全性や再延長に対する不安や疑問の声もあり、本市ではこのような想いを真摯に受け止め、4つの柱からなる全27項目の条件をとりまとめ、環境大臣に対し直接提示しました。

その結果、環境大臣からは、国の責任と覚悟との下、この条件を承諾し、万全を尽くして対応するとの回答があり、本市は要請を受け入れることとしました。

今後もPCB廃棄物の安全かつ早期の処理を推進し、市民の安全安心と理解の確保に最善を尽くしていきます。